

教育目標： 立志鍛練の校訓のもと、地域リーダーとしての誇りを持ち、向上心に溢れ、協働性を備えた人材の育成

目指す学校像： 生徒の進路目標に全力を尽くす学校

| 重点目標 | 具体的項目(PLAN) | 方策・手立て(DO) | 学校自己評価(CHECK) | 協議委員評価(CHECK) | 結果の考察・改善(ACTION) |
|--|---|--|---------------|---------------|--|
| Ⅰ 学習指導の充実と進路希望の実現 (教務 石山先生) DXハイスクール事業について | ①基礎学力の定着 ②ICTを活用した授業の研究・推進 ③課題の発見・解決に向けた情報活用能力の育成 ④交流及び共同学習の充実 | ①・授業時間確保のための時間割調整 ・観点別評価に対応した問題の検討と作成 ・月曜6限放課による生徒の学習時間確保 ・生徒1人ひとりを大切に授業 ②ICT機器の積極的利用と設備の充実 ③教育活動の場面場面(各教科、探究活動等)での情報と情報技術の活用 ④・学期ごとに支援学校との連絡会実施 ・昼食交流会、共同学習の周知徹底 | 3 | 3 | ①観点別評価に対応した問題により、生徒は「自分に何が足りないか」を具体的に把握。「次にどうすべきか」という指導とセットで運用することで、より定着率が高まるのではないかと。月曜6限放課による「時間の余白」は、自学、教員との対話の時間を確保しているが、単に放課にするだけでなく、どのような時間の過ごし方を行っているか、図書室の利用状況など、その時間をどう使ったかの可視化が必要。 ②動画やシミュレーションで提示できるため、理解度は向上しているのではないかと。今後は成功事例などを紹介、共有できる仕組みが作れるとよい。 ③「調べ学習」に留まらず、得た情報をどう分析し、課題解決につなげるかを体験させることを重要視している。今後、プレゼン、ポスター発表など、情報を形にする手法を増やすことで、生徒の情報活用能力を向上させたい。 ④今後も定期的な連絡会や交流会を行うことが、「日常的な共生」への第一歩となる。共同学習を通じて、相手の立場に立って考える想像力を育ててほしい。 |
| 体育コースにおける学習の充実と進路実現 | ①学習と部活動の両立ができる選手育成 進路先で学習に困らない学力向上 | ①学期に1回開催する体育コース生徒の教科連絡会による教科担任との情報共有 | 2 | 2.3 | 体育コース生徒の教科担任と普段の授業状況など情報共有することはできたが、明確な改善策を立てることは様々な授業形態がある中で難しい面があった。進路先で学習に困らないよう、競技での進路実現の有無にかかわらず、志望校に学力レベルが到達しているかどうかを実力テストで診断するなど、生徒への学習対策やアプローチを教科担任と連携して高めていきたい。 |

| | | | | | |
|-------------------------------|---|---|-----|-----|---|
| (進路 満窪先生) | <p>①学びに向かう主体的な学習姿勢の確立 ②キャリア教育の充実 ③進路目標に必要な学力と学び続ける姿勢</p> | <p>①2年保護者進路後援会(6月), ・3年保護者進路講演会(6月), ・共通テスト受験者・保護者進路講演会(9月) ・小論文講演会(3年:7,1月) 志望理由講演会(2年:7月) ②・職業研講話(1,2年)企業体験学習・地域巡検(1年) ・1,2年大学出前講座(国公立大学中心) ・校外進学ガイダンス(3年・1年)(普通科) ・課題研究発表(3年:県,1,2年:校内) ③・学力検討会(年3回) ・自主的学習と全職員による推薦入試指導の充実:9~10月推薦受験指導期間による3年課外中止(志望理由,小論,口頭試問,面接,討論指導等) ・多様化する進路希望に対応した課外の実施(1,2,3学期) ・大学別オープン模試(3年:7,8,10,11月)</p> | 3.5 | 3.6 | <p>・課題研究や探究活動,大学でのセミナー等への参加が増え,職業観や進路意識の向上につながった。 ・キャリア教育や進路学習では地域やOBの支援で充実した。今後も課題解決に向けて生徒の計画的な取組と考察や分析力を深める工夫が必要である。 ・課外改善3年目であった。推薦指導では難関大学に挑戦者が増えた。共通テスト無し 10/22有り〇〇/18。一般受験で更に合格した。今後は,生徒が学習する自習室の教室確保が必要になる。 ・新課程入試2年目で,基礎基本を押さえた上で思考力の問題対応等多様化した。共通テストweb出願初年度で,ハード面の支援とオンラインに対応した機器の充実も必要。進路目標達成に向け,教員の指導力向上に向け研修の機会を増やす等と指導法の工夫改善に取り組む。</p> |
| 2 良好な人間関係構築と生徒活動の充実(生指 内之倉先生) | <p>①基本的生活習慣の確立 ②思いやりの心や自己肯定感の育成 ③学校行事を通じた生徒の主体性の育成 ④部活動の活性化</p> | <p>①登下校や集合時間の時間厳守 ②支援学校との交流・ボランティア活動参加への呼びかけ,こばやし熱中小学校との連携 ③生徒会活動の活性化 ④部活動活性化</p> | 3 | 3.4 | <p>①年度当初から遅刻する生徒はほとんど見受けられなかった。2学期に若干継続してくる生徒がいたが,声をかけることで改善した。 ②地域のボランティア活動に積極的に参加する生徒が増えた。小林秋祭りの際には多くの生徒が神輿を担ぐなど様々な場面で貢献した。 ③生徒会を中心に秋桜祭を素晴らしい形で成功に導いた。また,立候補者も増え,活動の充実が見えた。 ④体育コースを中心に全国で活躍した。ウエイトリフティング部の川崎琉愛がインターハイで全国制覇した。また,文化部も書道部などが活躍した。部活動加入率が89%になり,部活動の活性化が図られている。</p> |
| 3 保健・環境の充実(教頭 井野) | <p>①自己管理能力の育成と教育相談体制の充実 ②教育活動における事故の未然防止 ③校内美化活動の充実 ④防災意識の向上</p> | <p>①SCやSSWとの連携 ②行事等での健康観察の徹底 ③日頃の清掃活動の徹底。PTAとの連携による校内美化清掃 ④年2回の防災訓練</p> | 3 | 3.3 | <p>①教育相談部が中心となりSCやSSWの活用を積極的に行った。 ②各行事における健康観察の徹底ができた。特に大きな行事である体育祭や駅伝大会においては事前アンケートを実施し,生徒の状況を事前に把握し,当日に運営に生かすことができた。</p> |

| | | | | | |
|------------------------------|---|---|---|-----|---|
| | | | | | <p>③夏休みに実施された PTA との校内美化清掃では、多くの生徒と保護者・職員が参加し実施した。その結果、体育祭を安全に行うことができた。</p> <p>④1回目の防災訓練は、台風の影響で延期となったが、支援学校と合同で行うことで課題を多く見つけることができた。課題解決に向け2回目の防災訓練の計画を積極的に進める授業展開を行っている。</p> |
| 4 保護者や地域から信頼される学校 (教頭 井野) | <p>①計画的・戦略的広報活動の充実</p> <p>②家庭・地域・同窓会との連携</p> <p>③危機管理意識の高揚及びコンプライアンス遵守</p> <p>④PTA 各種委員会活動の充実</p> <p>⑤職員の働き方改革の推進</p> | <p>①PR 委員会やみらい会議での取組</p> <p>②マチコミ、Classi、公式 SNS 等を活用しての家庭との連携。学校外活動の推奨</p> <p>③コンプライアンス研修や定期的な通信の案内</p> <p>④PTA 役員会・三役会の充実</p> <p>⑤ミライムやワークフローによる勤務時間等の管理</p> | 3 | 3.1 | <p>①パンフレットとポスター作成にはプロジェクトチームを立ち上げ作成できたが、完成時期が遅かったため、次年度は早めの完成を目指す。</p> <p>②Classi を通しての欠席連絡が徹底できてきた。特に学級閉鎖時の対応などで役にたった。SNS 等を活用し行事ごとの様子の発信に努めた。今後は、全職員が活用できるように努力していく。</p> <p>③職員会議などでサービスに関する研修を行った。また、定期的に県より送られてくる「コンプライアンス通信」を全職員に周知することで意識向上に努めた。</p> <p>④PTA の朝の挨拶運動を2回実施。校内美化活動。受験生激励会(カツカレー)等を計画的に実施できた。PTA 三役会では、年間の行事を確認ができています。</p> <p>⑤ミライムによって勤務時間を把握している。また、今年度はフレックスを積極的に取るように進め、先生方の働き方の改革に努めた。</p> |

学校運営協議会委員の方より

最後に御助言等ありましたら、自由に御記入ください。

- ・インスタやフェイスブックで文化部の活動を紹介する
- ・私立高校の授業料無償化に伴う公立高校の危機。どのように学校独自の魅力・強みを出していくのか
- ・学校と保護者、地域が知恵を出し合い頑張る必要がある。
- ・結果考察の報告を「～を改善した」など評価につながる記述を明確にしてもらおうと評価しやすい。
- ・生徒との意見交換などで小林高校を身近に感じる事ができた。もっと外にアピールすることを期待している。
- ・KPIを明確にしてから、評価すべき。**【KPI(重要業績評価指標)はビジネス目標における達成度合いを評価するための指標】**
- ・仕組みそのものに「評価・改善を要する」必要がある。
- ・現場の先生方の頑張りをもっと知ってもらうために、協議委員も一緒に働くなどの取組を行ってもよいのでは。